

●モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 6-2

子どもの休日

目次

要約の読解 入試に役立つ日記①	2
はじめに	6
1 起床から朝食まで	7
●女子のほうが朝寝ほう	7
●いつもより遅い朝食	11
2 朝食の風景から就寝まで	13
●日曜日の朝食	13
●休日の就寝	16
3 休日の過ごし方	18
●休日の遊び	18
●休日の勉強	22
●休日にとすること	24
4 家族との関わり	26
●家族との団らん	26
●両親との過ごし方	28
●きょうだいとの過ごし方	30
●休日・祝日をどれくらい知っているか	31
シリーズ/講座・子ども調査入門④ アンケート調査の壁を越える	深谷昌志 33
資料1 調査票見本	38
資料2 学年・性別集計表	46

調査レポート／子どもの休日

要 約



①休日の生活リズム

ふだんより起床の遅い子が56%、同じくらいが34%、早い子が10%で、女子のほうが寝ぼけである。(図2、表1-①、図3、表2、図4、表3) また家族も遅く起き(図5)、朝食の時刻も遅く、平均8時49分である。(図6、図7、図8、図9)



②休日に全員そろった朝食は

前日の日曜日に全員そろって朝食を食べた家はわずか38%。また、1人で食べた子も18%。なお、1人で食べた割合は、学年と共にふえてゆく。(図10-①、図10-②)



③日曜日の朝食

とくにごちそうではなく、ふだんと同じ(68%)か、かえって簡単(23%)。(図11、表4)

東京学芸大学助教授 深谷和子

東京都中央区立豊海小学校教諭 湯沢斉之

横浜市立鳥が丘小学校教諭 戸塚 智

東京都江戸川区立小松川第二小学校教諭 矢部 崇

④休日の就寝

朝寝ぼうの割には、いつもと同じくらいの時間に寝る子が62%と多い。しかしいつもより遅い子も23%いて、これが月曜日の朝のねむそうな顔を作り出しているのだろう。(図14、表6)



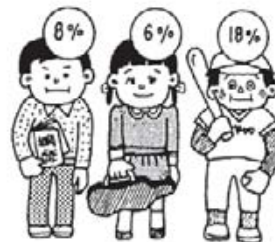
⑤友人との遊び

日曜日にクラスの友人と全く遊ばなかった子は76%もあり、また遊んでもせいぜい1-2人(55%)。また近所の友だちと全く遊ばなかった子も72%で、遊んだ子もその人数は1-2人が50%。(図15、図16)



⑥塾やおけいこなど

日曜日に塾へ行った子はわずか8%。おけいこが6%。スポーツの練習などが18%に過ぎず、それほどいそがしい日ではなさそうだ。(図17) また勉強も、1時間以内が約6割。(図18)



調査レポート／子どもの休日

要約



⑦休日に何をしたか

昨日の日曜日に、全く本を読まなかった子は57%、お手伝いをしなかった子は34%、お使いに行かなかった子65%、自分の部屋のそうじをしなかった子が46%、テレビを見なかった子5%、スポーツをしなかった子が44%。(図19)



⑧家族としたこと

1位 外食(おやつ類)、2位 デパートへ買いもの、3位 外食(食事)で、あとはとるに足らない割合である。(図21)



⑨きょうだいとしたこと

きょうだいがいる子は、一緒にテレビやおしゃべりはするが、他の遊びをした割合はぐっとへってしまう。(図23)

調査概要

1. 調査主題 子どもの休日
2. 調査視点 小学生の日常生活と休日の過ごし方のちがいをとらえる。子どもたちは休日をどんな気持ちで、どんなふうに過ごしているか。月曜日に

前日の日曜日について調査する。

3. 調査項目 日曜日の朝食／日曜日のおけいこ／日曜日の遊び／日曜日の勉強／日曜日の読書／家族とのかかわり／祝日の認知実態／日曜日の就寝時刻など

⑩休日を覚えているか

子どもが日づけを言える休日または特別な日は、1.母親の誕生日、2.父親の誕生日、3.子どもの日、4.クリスマス、5.体育の日、6.バレンタインデーまでが6割を越え、他はぐっと低くなる。(図24)



⑪疲れ休みの日としての休日

子どもにとっての休日は、子どもらしく生き生きした活動の日というより、朝寝ぼかをして、外出となればレストランやデパートへ行くなどのように、疲れ休みの影の濃い1日のように思われる。

豊かな社会の到来とは言われるものの、これが本当に豊かな社会に暮らす人びとの暮らしなのだろうか。



- 4.調査時期 1985年(昭60)11月
 5.調査対象 東京・神奈川・千葉の小学4・5・6年
 6.調査方法 学校通しによる質問紙調査

7. サンプル数 (人)

学年/性	男子	女子	計
4年	233	210	443
5年	219	208	427
6年	239	235	474
計	691	653	1,344

はじめに

子どものころ、明日の休みがどんなに楽しみだったか、そのワクワクした気持ちは、誰もが、今なお鮮明に胸の中にとどめているのではなからうか。

友だちと出かける約束、虫や魚を採りに出かける計画、野球の試合の予定など、あげればきりが無いのだが、とにかく学校がなくて、朝からまる一日中が自分の時間だという思いは、どんなに子ども心に輝かしいものだったか。その胸のときめきを、われわれは生涯忘れることはないだろう。

だが、教室の内外を問わず最近の子どもたちの暮らしぶりは、われわれの子ども時代とはずいぶん変わってきている。学校内での生活は今も昔もあまり変化がみられない部分も多いようだが、寝不足の子どもや、外遊びをしたがらない子ども、学校から急いで帰り、学習塾に向かう子どもなどを目のあたりにすると、どうもようすがおかしい。子どもたちの学校外での暮らしぶりの変化が、推測されるのである。

いったい子どもたちは、どんな校外生活を送っているのだろう。とくに休日をどのように過ごしているのだろう。

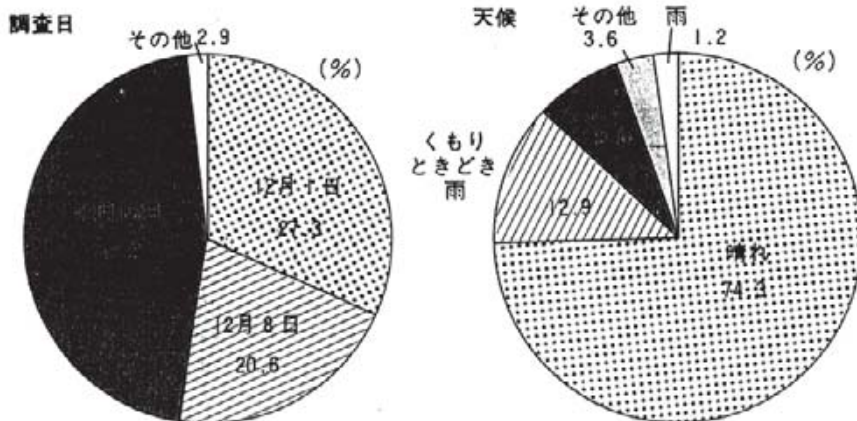
父親にとっての休日といえば、仕事の疲れ

をいやすために、家でゆっくりと休んだり、テレビを気ままに見たり、家族とどこかに出かけたり、レストランに食事をしに行ったり、それでもなければゴルフや釣りに出かけるかもしれない。日ごろ、仕事に忙しい父親たちにとっては当然の過ごし方といってもいいかもしれない。だが、小学生たちの学校生活はそれほど疲れるものではないのだから、家でゴロゴロしている必要はないはずである。だが、部屋の中でテレビをよく見て、マンガ本を読み、ファミコンなどのゲームを一人か二人の友人としている風景が、今の小学生の校外生活だとも聞く。もし、それが本当だとしても、朝から自由な時間のもてる日曜日にも、本当にそんな風に過ごしているのだろうか。

本調査は、小学生の日常生活と休日の過ごし方の違いを知るために行ったものである。子どもたちは、休日をどんな気持ちで、どんなふうに過ごしているのだろうか。

調査は12月上旬の月曜日、首都圏の都市化の度合いを異にする5校の小学校4、5、6年生1344名を対象に行われた。天候は図1に示したように、4分の3が晴れて暖かい日であった。

図1 調査日と天候



1. 起床から朝食まで



女子のほうが朝寝ぼう

まず最初に、子どもたちの休日の起床時刻をみてみよう。表1-①は起床時刻を30分単位に分けて表したもののだが、7時～7時半前後を中心として子どもたちが起床しはじめるのがわかる。そして、9時までには、85%以上が起床する。しかし気になるのは、10時過ぎになってもまだ床についている子どもが5%もいることだ。6年生では6%にもものぼる。いくら休日だからといって10時過ぎまで寝ているのは、子どもとしてどうだろう。また、起床時刻を学年・性別で示したのが表1-②だが、6年生の女子の起床時刻が他に比べて30分近くも遅いのがわかる。同じ6年生の男子とでは45分も遅いのである。それだけではない。他の学年も男子より女子のほうが起床時刻が遅いことがわかる。なぜか、女子は男子に比べて、日曜日は朝寝ぼうのようである。

次に、いつもの日と比べた起床時刻が図2である。これによると、全体の56%がいつもより遅く起きることがわかる。あと34%がいつもと同じくらいで、いつもより早く起きる子どもも10%いる。毎日の生活が忙しい小学生は、休日になれば、おとなと同じように多少朝寝ぼうがしたくなるらしい。特に女子はその傾向にあるようだ。また、4年、5年、6年と学年が上がるにつれて、わずかではあるが遅く起きる子どもの割合が多くなっている(図3)。さらに、表2は、いつもより遅く起きる819名についてどれくらい遅く起きるのかをたずねたものだが、平均でおよそ1時間34分ほど遅く起きることがわかる。逆に、いつもより早く起きる子ども179名について示したのが図4、表3で、1時間6分ほど早く起きている。

さて、子どもたちの起床時刻を見てきたところで、今度は両親についてたずねた結果を見てみよう。図5からわかるように、60%ほどの父母が、いつもより遅く起きると答えている。これは、先に示した小学生の56%と同

程度の数値になっている。

また、父母を比べると、ずっと遅くまで寝ているのも、いつもより早く起きるのも父親の割合が高いことがわかる。

表1-① 昨日の日曜日一起きた時刻

(%)

起床時刻	4年	5年	6年	父	母	計
5時前	0.6	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6
5時00分～5時30分	0.5	1.6	1.2	1.6	0.7	1.1
5時30分～6時00分	3.2	3.5	3.3	4.0	1.6	3.3
6時00分～6時30分	11.7	9.4	10.0	13.8	6.8	10.4
6時30分～7時00分	12.1	15.0	12.5	14.9	11.1	13.3
7時00分～7時30分	19.8	19.8	19.3	18.2	21.0	20.0
7時30分～8時00分	14.2	13.2	13.0	12.1	15.0	12.5
8時00分～8時30分	18.0	16.9	16.8	12.9	22.0	17.3
8時30分～9時00分	7.2	6.7	7.3	7.4	6.9	7.3
9時00分～9時30分	7.4	7.3	7.3	6.3	7.9	7.1
9時30分～10時00分	2.3	2.7	2.9	2.4	3.0	2.6
10時00分～10時30分	2.2	1.4	2.7	2.0	2.2	2.1
10時	0.8	2.0	3.1	3.9	1.2	2.4

表1-② 起きた時刻の平均

性別	4年	5年	6年
男	7時51分	7時35分	7時41分
女	7時58分	7時58分	8時26分

図2 起きた時刻—いつもとくらべて—

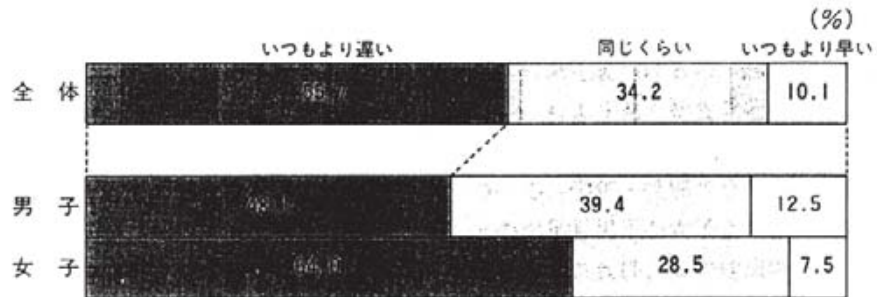


図3 いつもより遅く起きる—性・学年別—

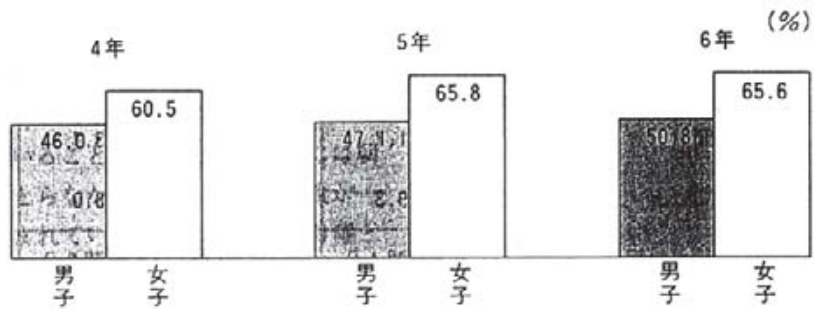


表2 いつもよりどれくらい遅いか

(819名) (%)

遅さ	性別		全体 (%)
	男子 (%)	女子 (%)	
30分～1時間	21.9	15.2	18.1
31分～1時間	22.0	24.2	23.2
1時間1分～1時間30分	19.4	26.2	23.0
1時間31分～2時間	14.0	14.3	14.0
2時間以上	22.7	20.1	21.7
遅さの平均	1時間33分	1時間34分	1時間34分

図4 いつもより早く起きる—性・学年別—

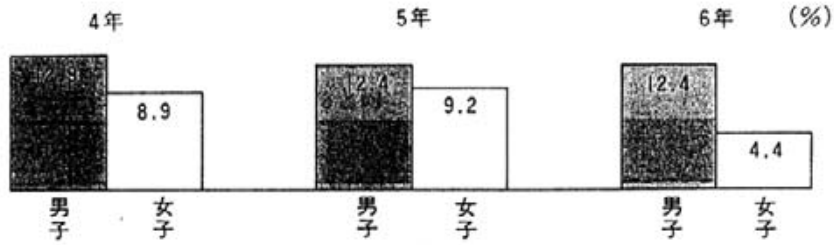


表3 いつもよりどれくらい早い

(179名) (%)

早さ	性別		
	男子	女子	全体
15分～30分	39.4	50.7	44.8
30分～1時間	32.7	19.1	28.0
1時間15分～1時間30分	16.5	14.4	15.8
1時間30分～2時間	1.7	5.0	3.4
2時間以上	9.3	10.8	8.0
早さの平均	1時間4分	1時間10分	1時間6分

図5 家族の起床時間



いつもより遅い朝食

以上のことから、あらかじめ予想されていたとおりであるが、日曜日の朝は、家族全体で朝寝を楽しむ家庭像が浮かび上がってくる。では、子どもを含めての朝食はどのようになっているのだろうか。

図6は朝食の時間帯をたずねた結果であるが、バラツキが大きく、7時前から10時半ぐらいまでに幅がある。7時前に朝食をとるのは全体の9%ほど、全体では8時～8時半に朝食をとる者が一番多く16%、次が9時～9時半の14%。平均時刻では、およそ8時50分ということになる。平日の学校が8時半過ぎに始まることを考えると、かなり遅い朝食時間であると言えよう。また、ここで考えてみたいのが、10時以降に朝食をとる者が全体の17%近くもいることだ。この数値の中には朝食を正式にとらなかった者や朝食と昼食が一緒な者が含まれていると予想される。日曜といえども、これでいいのだろうか。さらに、

その結果を裏づけるのが図7で、全体の81%がいつもより遅く朝食をとっている。いつもより早いのはたったの7%。また、これらについて、学年・性別で示したのが図8である。どの学年も男子が女子より早く朝食をとっているが、これは、先の起床時刻の男女差とも一致する結果である。おそらく、男子は野球やサッカーなどのスポーツの早朝練習などに参加している者が多いためと予想されるが、それについての検討は、後にゆずることにしたい。

次に図9は、いつもよりどのくらい遅いかを示したものだが、3時間以上も遅い朝食をとる子どもが20%近くもいることがわかる。このように、休日にふだんの生活リズムを大きく変えることについて、どう考えたらよいのだろうか。このことは、夏休み明けに、子どもたちが学校生活のリズムに適應しにくいようすを、思い出させる。おとなはともかく、

図6 朝ごはんの時間

7時前	7:01~ 7:30	7:31~ 8:00	8:01~ 8:30	8:31~ 9:00	9:01~ 9:30	9:31~ 10:00	10:01~ 10:30	10:31 以降	(%)
8.5	12.6	15.9	12.8	14.5	7.5	7.4	9.2		

(平均=8時49分)

図7 朝ごはんの時間—いつもとくらべて—

	遅い	同じ	早い	(%)
	81.0	11.7	7.3	

子どもたちの生活リズムは、もっとコンスタントでもいい気がする。ただし、これが早起きのほうへの変化なら、まだいいかもしれないのだが。

休日といっても子どもたちが自由に活動できる時間には限りがある。朝寝ほうは子どもたちの活動時間の大きなロスを生み出す。3時間も遅く朝食をとれば、友だちと遊んだり、どこかに出かけたりするのは、ほとんど午後からとなる。休日でも集団での外遊びが十分には成立しない原因がこのへんにあるかもしれない。

われわれの子ども時代には、「早起きは3

文の徳」などと言われ、ふだんでも親から早く起きて家の手伝いをしたり、外で遊ぶように言われたものだ。まして、日曜日となるとなおさらのこと。だが、これまでのデータを見るかぎり、現代にそのような子どもの姿または、家庭の姿は見られない。おとなと一緒に休日の朝をゆっくりと過ごす子どもの姿はあっても、朝食の前に部屋や玄関の掃除、庭の水まきをする子ども、または、本を読んだり勉強を片づけてしまう子どもたちは少なく、まして早くから遊び友だちを誘いに行く姿も稀になってしまったようである。

図8 いつもとくらべた朝食の時間—性・学年別—

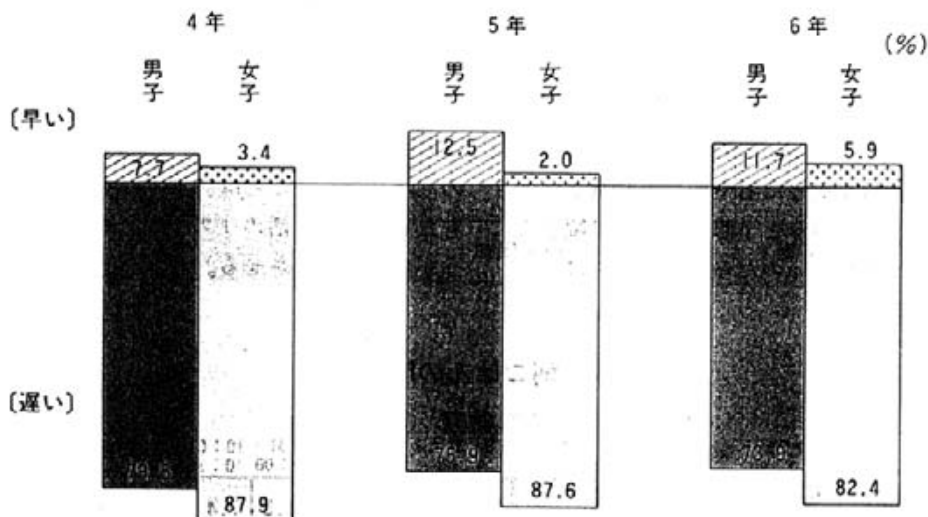
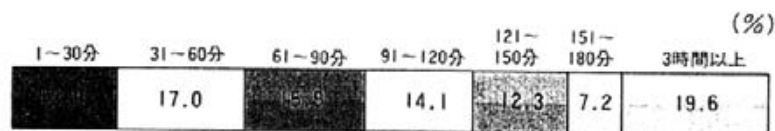


図9 いつもよりどのくらい遅いか



2. 朝食の風景から就寝まで



日曜日の朝食

次に子どもたちが家族とどのように朝食をとっているか、朝食の風景をのぞいてみることにしよう。図10-①は家族との朝食についてたずねたものである。これによると、昨日の日曜日に家族全員が朝食にそろったのは全体の38%しかない。気になるのが、日曜日ですらひとりで朝食をとった子どもが18%もいる事実である。塾に出かける、スポーツの早朝練習がある、友だちと釣りなどに出かけるなどの理由もあるだろうし、何かの都合で父母が不在であったとも考えられるが、これでよいのだろうか。また、図10-②はひとりで朝食をとった子どもを学年・性別に示したもののだが、学年が上がるに従ってその割合は高くなり、5・6年生では、男子が女子よりもその傾向が高くなっていることがわかる。

次に図11は、朝食の中味についてたずねた

結果である。日曜日の朝食がいつもよりごちそうだったと答えたものはわずか9%で、いつもより簡単だったものは23%、いつもとあまり変わらないと答えたものが68%ほどとなっている。休日の朝食は意外に軽視されているようだ。また具体的な朝食の例をあげたのが表4である。これによれば、ジュース1杯とか、ホットケーキ、カップラーメン、パン1枚などが見られ、非常に簡単なものが多い。全体的にはスナック的な朝食の傾向にあると言えよう。さらに、朝食の時にテレビがついていたかどうかをたずねたのが図12である。ついていたのが43%、ついていなかったのが57%で、やはり日曜日の朝食にもテレビがはいりこんでいることがわかる。

また、朝食を父母と一緒に食べたかどうかを、夕食と比較したのが図13である。親と一

緒の食事は休日でも朝食より夕食のほうがずっと多い。さらに朝夕とも、母親とのほうが多いこともわかる。たとえば6年生は、父親と一緒に食べた朝食は41%ほどだが、夕食は74%とはね上がる。母親でも、朝食は58%前後

だが、夕食になると87%にも達する。ふだんどのくらいの割合で両親と一緒に食事しているかは、今回の調査ではわからないが、日曜日などの休日の夕食が、家族にとって非常に意義のあるものであることがよくわかる。

図10-① 家族との朝食

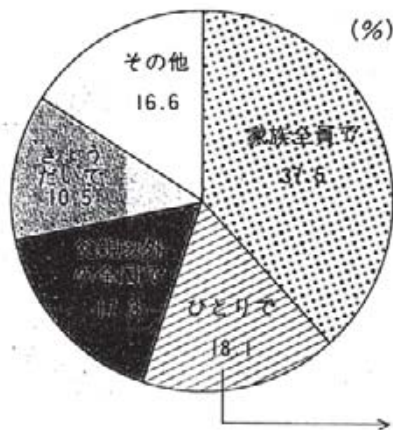


図10-② ひとりで朝食を食べる割合

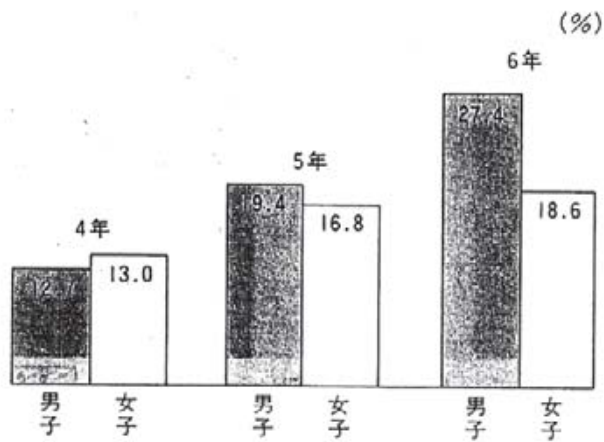


図11 朝食はごちそうか

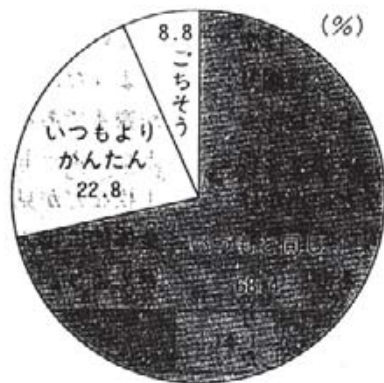


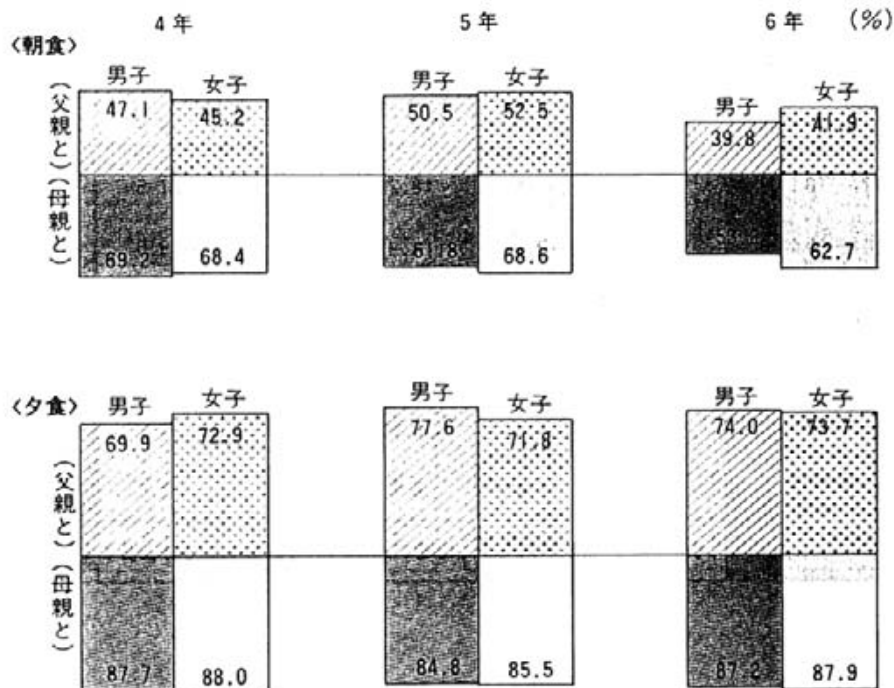
表4 朝食の内容(自由記述)

○ゴハン	○納豆	○お茶づけ	○みそ汁
○ハム	○スパゲッティ	○ラーメン	○ジュース1杯
○ソーセージ	○うどん	○カップラーメン	○くだもの
○玉子焼	○ホットケーキ	○お好み焼	○パン1枚
○カレーライス	○やきそば	○ハンバーグ	○パンと牛乳

図12 テレビはついていたか



図13 両親との朝食・夕食



休日の就寝

では最後に、子どもたちの就寝時刻について見てみよう。

表5は30分ごとに就寝時刻を分けて示したものである。学年が上がるにつれて、就寝時間の最大値が30分ずつ遅くなってゆき、6年生にいたっては11時過ぎに寝たと答えたものが27%にもおよぶ。また、就寝時刻の平均値を見ると、全体では、9時57分すなわちほぼ10時に寝ているが、学年が上がるにつれて15分ずつ遅くなってゆくこともわかる。また、

図14は寝る時刻をいつもと比較させたものだが、いつもよりも遅い者が23%ほど、早いのが15%、同じくらいが62%となっている。明日が月曜日で学校があるのだが、いつもより遅く寝る子もけっこういることがわかる。月曜日の1時間目の授業が眠そうで、集中力がないと教師たちが訴えるのもこのへんからくるものだろう。休日にいつもより体をつかった運動量のある遊びをして、おもいきりエネルギーを消費すれば自然と疲れて、早く床につ

表5 就寝時刻

就寝時刻	学年・性別					
	4年生	5年生	6年生	男子	女子	全体
8時55分	3.6	1.7	0.8	2.5	1.4	2.1
8時00分～8時30分	5.8	4.0	1.9	4.1	3.6	4.0
8時30分～9時00分	16.9	12.6	7.8	13.5	11.1	12.4
9時00分～9時30分	26.3	19.4	12.1	18.8	19.7	19.6
9時30分～9時45分	16.3	21.6	18.2	15.9	21.5	18.6
9時45分～9時59分	14.3	19.1	18.9	15.5	19.6	17.7
10時00分～10時30分	6.9	9.1	13.7	10.0	9.9	10.1
10時30分～10時35分	4.8	8.3	11.1	9.9	6.5	8.2
10時35分～10時40分	3.3	1.6	6.6	4.1	3.2	3.9
10時40分～	1.8	2.6	8.9	5.8	3.5	3.4
(平均時刻)	(9時41分)	(9時56分)	(10時11分)	(9時54分)	(10時00分)	(9時57分)

くはずだが、現代の子どもたちの生活にはその傾向がないようである。

最後に表6は、いつもより早く(遅く)寝た者の中で、どのくらい早く(遅く)寝たかをた

ずねた結果である。早く寝た者のうち70%は1時間内だが、遅い者の中にはいつもより1時間以上遅い者が40%もあり、月曜日の朝への影響が充分裏付けされる結果と言えそうだ。

図14 就寝時刻—いつもとくらべて—

	遅い	同じくらい	早い
全体	22.8	62.1	15.1
男子		60.2	16.4
女子		64.0	13.7
4年		61.4	14.2
5年	22.0	63.5	14.5
6年	22.2	61.5	16.3

表6 いつもよりどのくらいズレたか

学 年	いつもより早い				いつもより遅い			
	4年	5年	6年	全体	4年	5年	6年	全体
1~30分	48.9	43.1	34.0	41.6	33.5	30.2	27.2	30.6
31~60分	26.2	26.7	32.0	28.5	22.6	32.0	34.9	29.6
61~90分	10.7	8.9	18.5	13.2	15.9	13.8	19.4	15.6
91~120分	8.4	7.6	8.2	8.2	13.2	8.2	7.8	9.9
2時間以上	5.8	13.7	7.3	8.5	14.8	15.8	10.7	14.3

3. 休日の過ごし方



さて、いつもとは違った生活リズムで休日
をスタートした子どもたちは、その後どんな

ふうに貴重な日曜日を過ごしたのだろうか。

休日の遊び

「子どもは自由な時間があれば、1日中
も友人と遊ぶものだ」というのが一般的な通
念と思われるが、最近の子どもたちはどうも
そうではないらしい。図15-①は、きのうの
日曜日、クラスの友だちと遊んだかどうか聞
いたものである。一見してわかるとおり、全
体の8割近くの子はクラスの子ともとは
遊んでおらず、その傾向は女子のほうに顕著
である。

さらに遊んだ子どもについて、何人ぐら
いの友だちと遊んだのかをたずねたものが、図
15-②である。全体の5割以上が、わずか「1
～2人」の友だちとしか遊んでおらず、「3

～4人」も含めると全体の8割をこえる。ほ
んとうに気の合った子どもとしか遊ばない、
言ってみれば、意見の食い違いが起らない
程度の規模でしか遊ばないというのが特徴と
言えるのではないか。

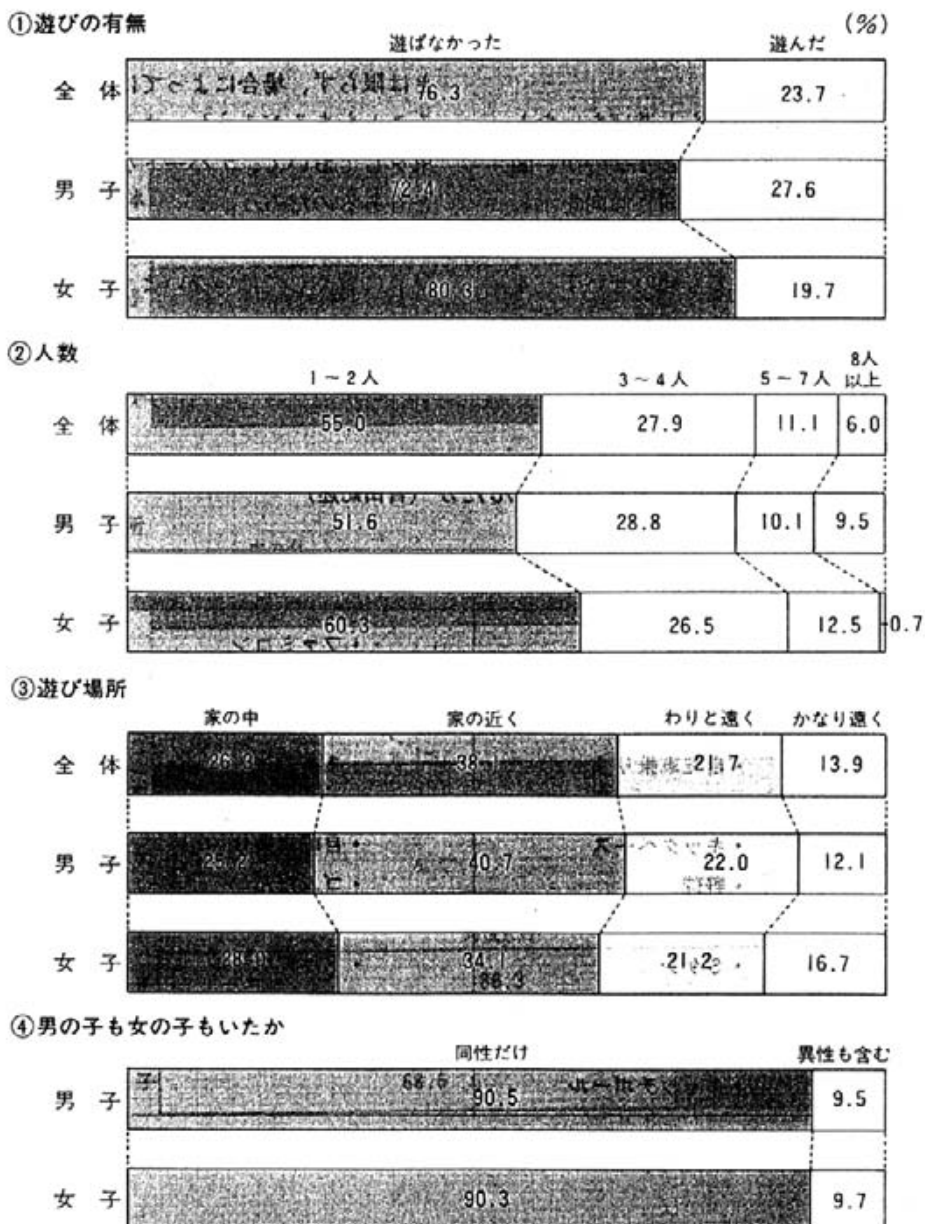
さらに男女の割合を比べてみると、女子の
ほうが「1～2人」の人数で遊ぶ割合が高く、
「8人以上」ではさらに顕著になる。男子で
はそれでもまだ、1割の子どもが8人以上で
遊んでいるが、女子ではほとんどいない。次
の表7も、それを裏づけている。男子も女子
も「ファミコン」や「トランプ」といった室
内ゲームで遊んでいるが、「サッカー、キッ

クレーン、野球、カンケリ」などの活動性が高く、多人数で遊んだほうが楽しい遊びは女子では登場しない。

図15-③は遊び場所を聞いたものだが、全体の4分の1が家の中だけで遊んでいる。この数字はむしろ予想していたものより低かったが、複数の場所で遊んだ場合は、より遠い

場所を選ぶように質問では指示してあるので、実際には家の近くで遊んでいた子どもも、外で遊ぶのにあきたら、家の中で遊ぶケースが考えられる。したがって、たくさん的人数で外でおもいきり体を動かして遊ぶというよりも、せいぜい2～3人で、同性同士、室内を中心に遊ぶ姿が浮かんでくる。(図15-④)

図15 クラスの友だちと遊んだか



このような少人数の室内遊びを好む傾向は、最近の子どもたちの学校での自由時間の過ごし方とも合致する。「外で元気よく遊ぼう」というのが、週的生活目標にあがる学校は少ない。しかし子どもたちは、とくに冬になると、教室から追い出すようにしなければ、外に出て遊ぼうとはしない。また、外に出て、おとなの日なたぼっこのように、おしゃべりを楽しんでいる姿もよく見受けられる。おしゃべりが遊びであるかどうかは別にして、とにかく、室内で「しゃべって遊ぶ」というのが最近の子どもたちの遊びのパターンになってきているように思われる。

ところで、クラスの子ともと遊ばないならば、クラス以外の子ともとはどうなのか。図16-①によると、おおむね、同じ傾向を示している。全体の4分の3の子ともは遊んでいないし、また遊んだとしてもせいぜい1~4人の子ともと室内を中心にして遊んでいるの

がよくわかる。

ただ、近所の子ともと遊ぶ場合とクラスの子ともと遊ぶ場合の違いは、遊び場所に見ることができる。近所の子ともと遊ぶ場合「歩いたり自転車にのって、わりと遠くまで」と「バスや電車にのって、かなり遠くまで」遊びに行くのは全体の17%だが、クラスの場合のそれは、全体の36%におよぶ(図16-③)。特に女子は、遠出する傾向が高い。これは、近所の子どもの場合、その子の家まで遊びに行けるという手軽さがあるだろう。それに対して、クラスの子どもの場合は家が必ずしもごく近くとは限らず、場合によっては自転車で出かけることもあるだろうし、また、前日学校で約束をしておいて、デパートなどに出かけることもあるのだろう。

いずれにしても、子どもは休日の日中を「遊び」に費やしてはいないように思われる。

表7 何をして遊んだか(自由記述)

男 子	女 子
・ファミコン	・ファミコン
・トランプ	・トランプ
・メンコ	・すべり台
・自転車乗り	・ままごと
・サッカー	・なわとび
・キックベース	・自転車乗り
・野球	・ゴムだん
・テニボン	・鬼ごっこ
・Sケン	・ドッチボール
・カンケリ	・バドミントン
・ドッチボール	
・キャッチボール	

図16 近所の友だちと

①遊びの有無

	遊ばなかった (%)	遊んだ (%)
全体	72.4	27.6
男子	70.4	29.6
女子	74.6	25.4

②人数

	1-2人	3-4人	5-7人	8人以上
全体	64.1	30.1	13.0	7.0
男子	69.7	29.7	10.5	11.6
女子	60.3	30.6	15.3	2.2

③遊び場所

	家の中	家の近く	わりと遠く	かなり遠く
全体	64.8	50.3	9.1	8.1
男子	60.1	55.6	10.1	7.2
女子	69.5	43.6	7.9	9.1

④男の子も女の子もいたか

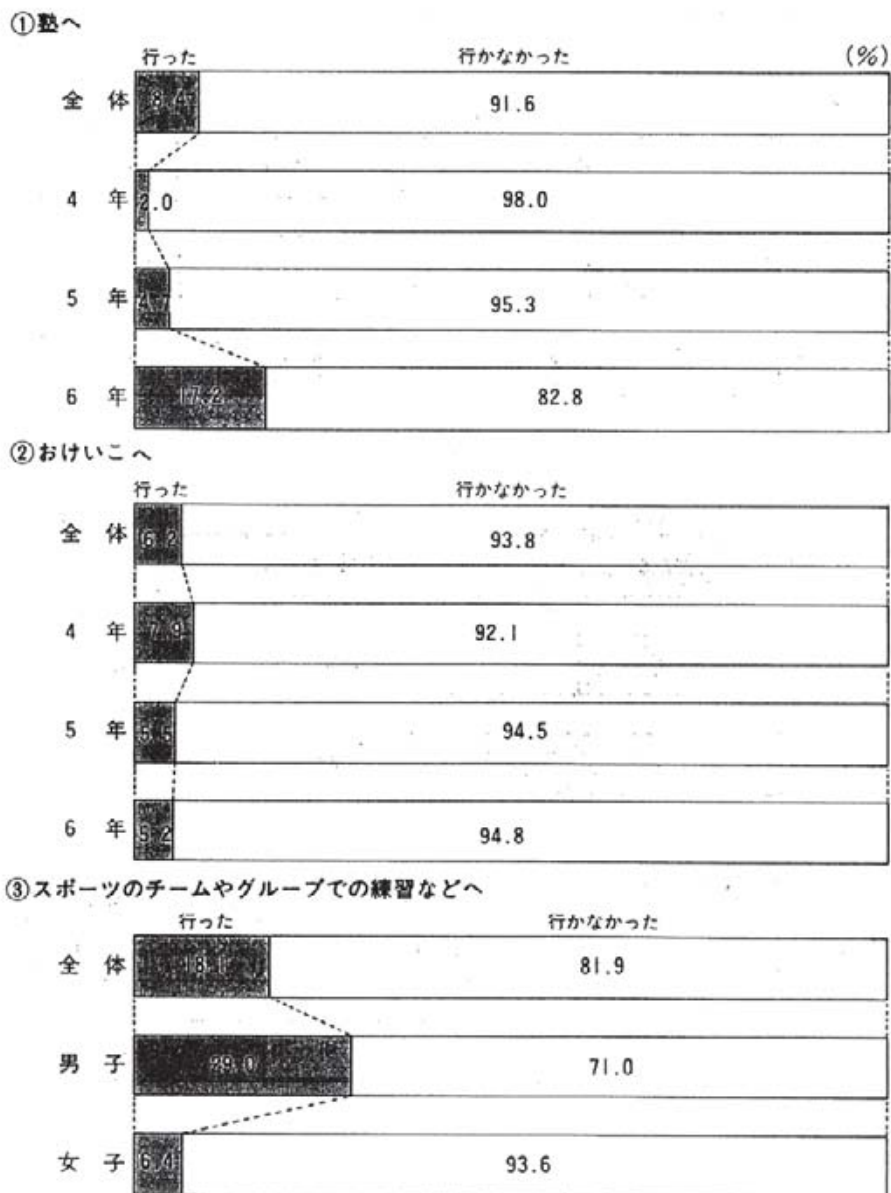
	同性だけ	異性も含む
男子	86.3	13.7
女子	68.6	31.4

休日の勉強

では、勉強のほうはどうだろうか。図17と図18を見てみよう。さすがに塾に行った者は8%と少ないが、宿題やそれ以外の自分の勉

強をしたと答えた子どもは、全体の6割にものはる。もっとも、勉強しているかたわらで、テレビがついている場合もあるだろうし、マ

図17 塾やおけいごとへ行ったか



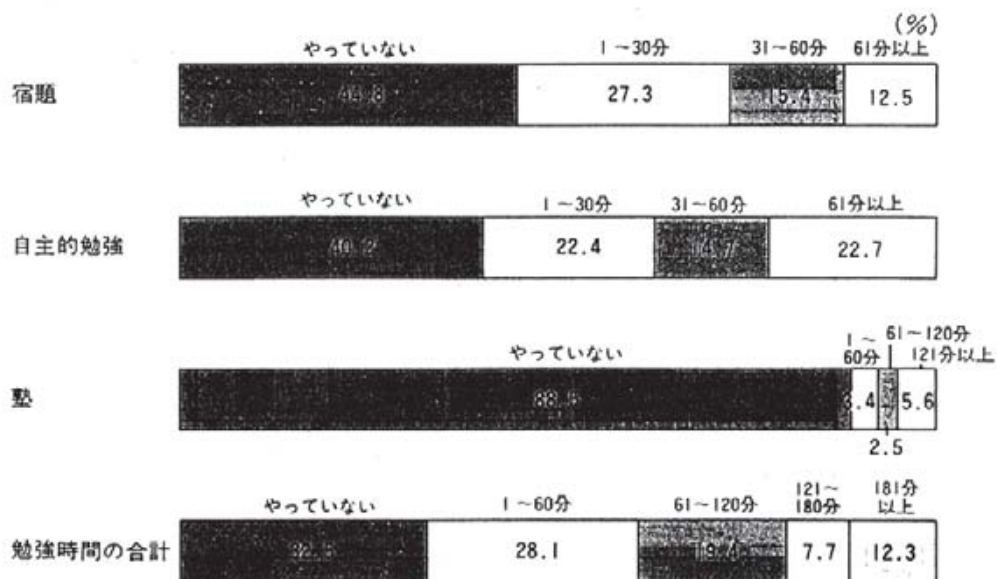
ンガをそばに置いて宿題をやっている子どももいるかもしれないので、これからすぐ「子どもは休みの日にもよく勉強している」と感心してしまってはいけないう。しかしながら、宿題以外の（やらなくても先生からはしかられない）自主的な勉強をしている子どもが全体の6割もいることは、注目に値する。

さらに、学年別の勉強時間を表している巻末の集計表を見ると、学年が上がるにつれて、勉強時間も増えていくことがわかる。特に6年生は4、5年生と比べて、勉強時間が多。先ほどの図17-①でも明らかなように、休日

に塾に行く子どもは、4、5年生では5%に満たないが、6年生になると17%にもなる。また、勉強時間の合計で見ると、全く勉強しない6年生は約4分の1。2時間ほど勉強する6年生は約3割、3時間を越えて勉強する6年生は1割もいる。しかし、とは言っても、勉強時間で見てみるならば、けっして勉強に多くの時間をさいているとは言えない。図18によると、1時間以下の者が全体の6割である。

では、遊びにも勉強にもあまり時間を費やさない子どもたちは、いったいどうやって休日を過ごしているのだろうか。

図18 勉強時間



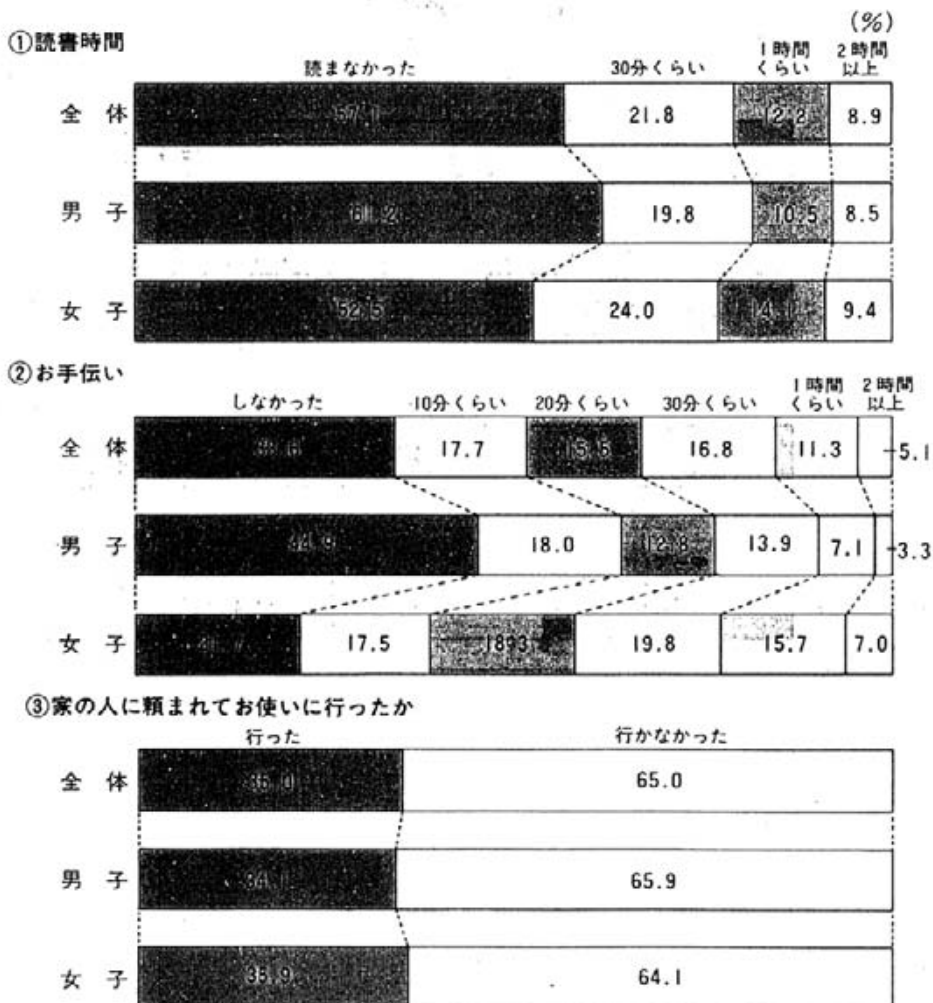
休日にすること

図19は、読書やお手伝い、そうじ、テレビ視聴などをどれくらいしたかをたずねたものである。読書やお手伝いでは、女子のほうが「した」と答えた割合が高い。しかし、時間で見れば、全体の約8割の子どもは「しなかった」か、または「30分くらい」したにすぎない。また、家の仕事でしたことと言えば、わずかに、自分の部屋のそうじ程度であるが、

それにしても、全体の約5割に過ぎない。それにくらべて、予想していたとはいえ、テレビ視聴時間の長さはどうだろう。友だちとの遊びの有無や勉強時間と比較してみると、いかに子どもがテレビ好きかが浮かびあがってくる。

もちろんテレビを見たのは昼間だけではないのだが、それでも1日のうち、テレビを全

図19 休日にしたこと



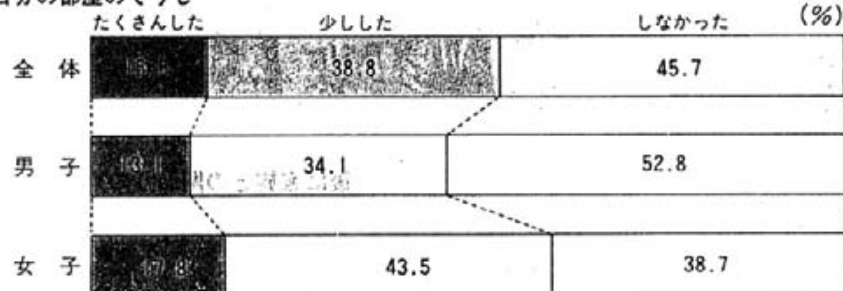
く見なかった子どもはわずかに5%、3時間もしくはそれ以上見ていた子どもは、全体の38%にもものぼる。

ところで、1章で見てきたように、女子のほうが朝寝ぼけで夜ふかしという傾向は何からくるものだろう。図17-③によると、スポーツなどの練習へは、男子の29%が出かけており、女子の6%をはるかに上まわる。また、図19-⑥を見ると、たくさん、または少しスポーツをした子どもは、男子の67%に比べ、女子は43%に過ぎない。つまり、野球の朝練などに出かける男子は、疲れるから夜も早く寝るが、運動することも少ない、朝寝ぼけの

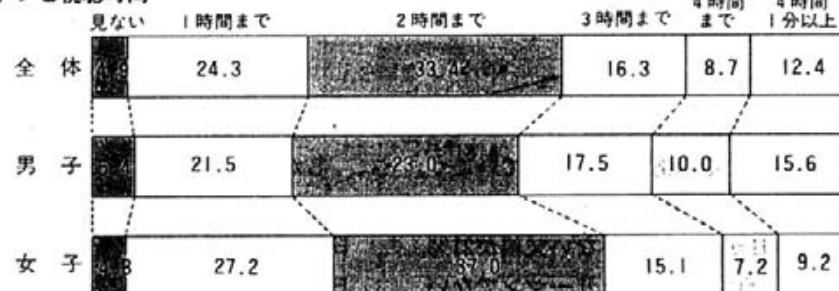
女子は、夜も遅くなるという図式が見えてくる。

さて以上のように、子どもたちの休日の過ごし方は、外ではあまり遊ばず、家の中でのんびりとマンガを読んだりテレビを見たりする。時折り勉強しては、またテレビを見る。まるで、疲れたおとなの休日の過ごし方をそのままコピーしたようであり、なんとも歯切れが悪いという印象だ。かつてのように子どもたちが胸をときめかすような休日は、戻って来ないのだろうか。

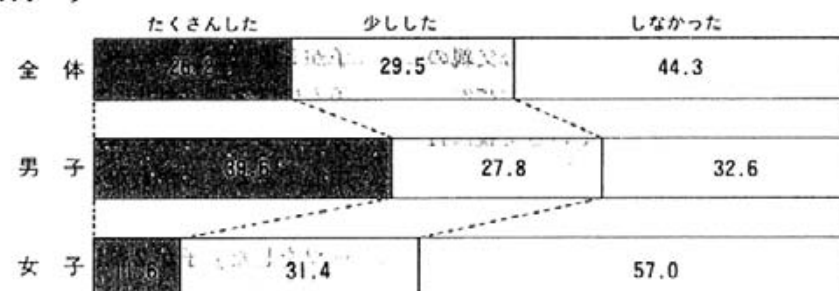
④自分の部屋のそうじ



⑤テレビ視聴時間



⑥スポーツ



4. 家族との関わり



これまでは、休日の子どもの過ごし方を、生活時間と活動の内容から探ってきたが、最

後に家族との関わりの点から、子どもの休日を追ってみよう。

家族との団らん

さて日曜日といえば、父親が家にいる日のイメージがある。そのあたりから見ていこう。図20によると、ほとんど休みなく働く父親が12%。休みの日が決まっていない父親が21%。これらはたぶん自営業か、サラリーマンでない父親たちだろう。巻末の集計表によれば、「お勤めに行っている」父親は63%で、ほぼ合致する数字である。そして決まって休む父親のうち、月2回ぐらいが8%、週1日が47%、週休2日をガッチリ保障されている父親は11%でしかない。

また休みの日は日曜が68%、(週休2日も含めて)土曜が52%。子ども全体としては、日曜日をお父さんと一緒に過ごせる(可能性

のある)子は、7割と、意外に少ない。

しかし父親がいるにせよいないにせよ、とにかく日曜日は家族と一緒に団らんを楽しむ日、というイメージが一般的である。では前日の日曜日、子どもたちは家族と何を共にしたのだろうか。図21によると、家族と外出し、おやつを食べた(お茶やケーキなどを食べた)子が5割近く、デパートへ買い物に行った子もほぼ3割、外出して食事した子が2割5分と、子どもの休日は外食とショッピングが中心であることがわかる。この傾向はとくに女子に顕著で、男子はそれでも家族と「スポーツをした」子が2割近くいる。

図20 父親の休日

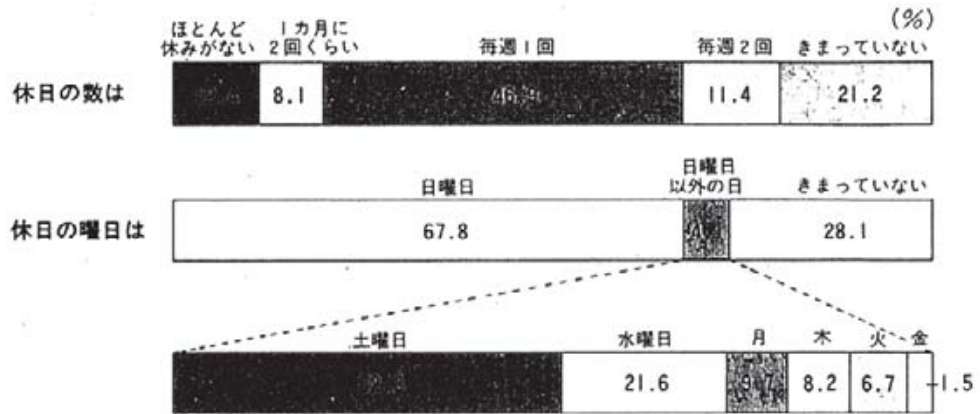
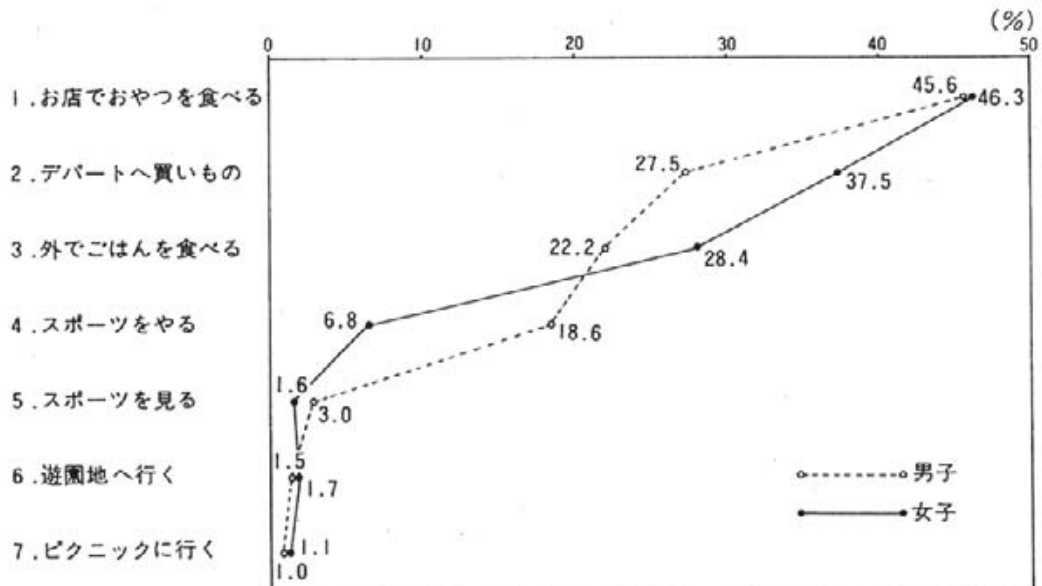


図21 家族としたこと—性差—



両親との過ごし方

次に家族を「父親と母親」とにしぼって、さらに見ていこう。図22が示すように、父親、母親とも、「おしゃべりを一緒にした」「テレビを一緒に見た」がダントツで、他はごくわずかである。それでも母親との場合「勉強をみてもらった」が3割に達する。60年の12月上旬は比較的暖かく、かつ調査対象日は74%が晴れていたのだが、「スポーツを一緒にした」は、ごくわずかではかない。日曜日のファミリースポーツが、もっと盛んになっ

てもよいのではないか。

また表8、表9を見てみると、父親と母親の仕事の内容と、一緒に過ごしたかどうかは、思ったほど関連がない。わずかにサラリーマンの父親は他の職業の父親より、子どもと共に過ごした者が多いが、差はわずかであり、母親の場合も、専業主婦の場合の数字が思ったより低いのはおもしろい。休日の過ごし方は、それぞれの親の心構えしだいなのかもしれない。

図22 両親と一緒にしたこと

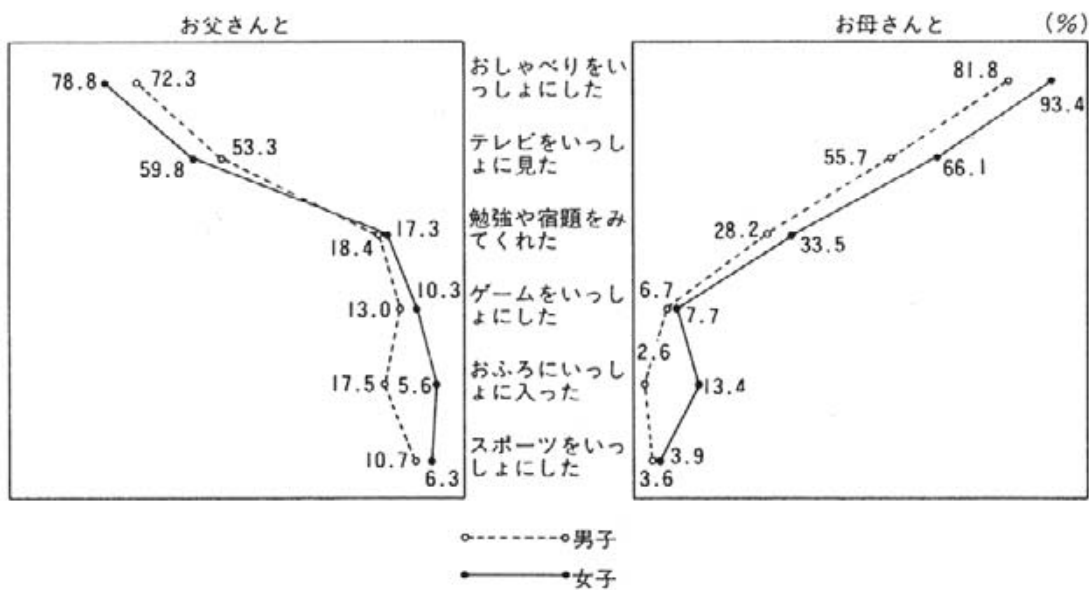


表8 お父さんと一緒にしたこと×お父さんの仕事

(%)

一緒にしたこと	お父さんの仕事 お父さん	お父さんの仕事 お父さん	お父さんの仕事 お父さん	お父さんの仕事 お父さん
お父さんと一緒に遊んだ	78.6	77.8	70.1	
お父さんと一緒に読んだ	59.6	56.4	51.2	
お父さんと一緒に食べた	19.8	13.1	16.5	
お父さんと一緒に見た	13.4	8.9	8.1	
お父さんと一緒にした	11.4	10.8	14.2	
お父さんと一緒にした	8.5	6.7	10.6	

表9 お母さんと一緒にしたこと×お母さんの仕事

(%)

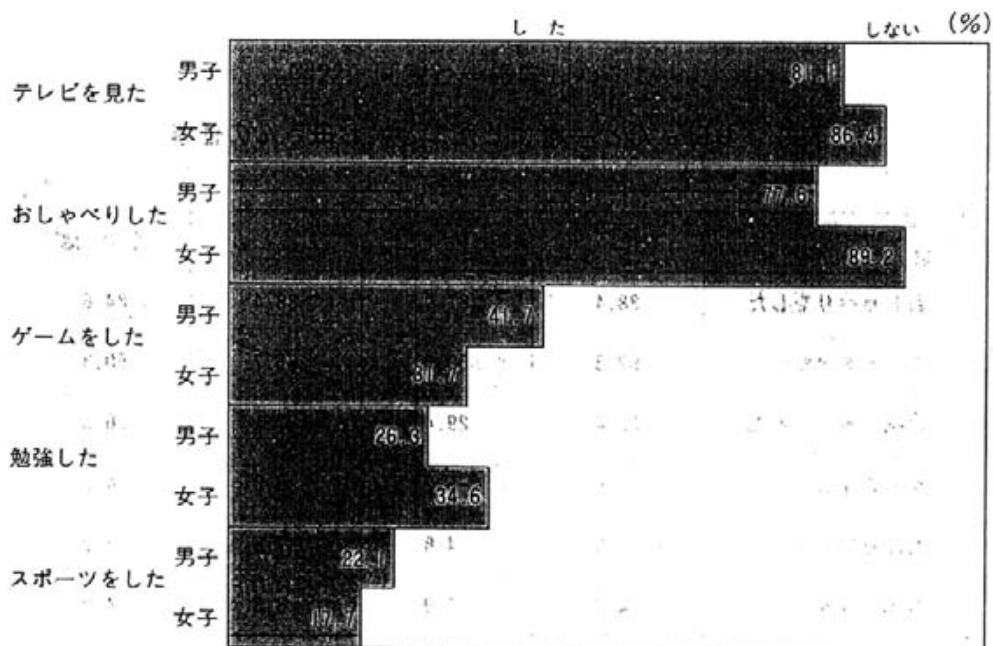
一緒にしたこと	お母さんの仕事 お母さん	お母さんの仕事 お母さん	お母さんの仕事 お母さん	お母さんの仕事 お母さん
お母さんと一緒に遊んだ	88.4	81.9	88.4	84.8
お母さんと一緒に読んだ	62.3	50.5	65.7	50.3
お母さんと一緒に食べた	35.4	29.4	27.1	26.6
お母さんと一緒に見た	7.4	5.7	8.8	4.0
お母さんと一緒にした	7.9	4.8	7.8	8.3
お母さんと一緒にした	4.3	2.9	3.3	4.0

きょうだいとの過ごし方

最後にきょうだいとの関わり合いを見たのが、図23である。きょうだいのいる者についてのみ見ると、テレビを見たりおしゃべりをしたりした者はほぼ8割を越えているが、ゲーム、スポーツなどは、一緒にした子のほうがずっと少なくなっている。きょうだいげん

かの経験が少なくなっていると言われるが、もともときょうだい数がへってきている上に、一緒にする活動がテレビとおしゃべりでは、けんかの生じる余地がなさそうだ。このあたりは、休日の家族での過ごし方について、もっと考えてみる必要があるだろう。

図23 きょうだいと一緒にしたこと*



*きょうだいのいる者のみ

休日・祝日をどれくらい知っているか

最後に、クイズ的な問題を加えてみた。子どもたちが、日曜以外の休日、祝日や、家族などの誕生日について、どのくらい知っているか（日を覚えているか）たずねたのが図24である。6割以上の子が知っているのが「母親の誕生日(87%)」「父親の誕生日(84%)」「子どもの日(83%)」「クリスマス(74%)」「体育の日(65%)」「バレンタインデー(65%)」で、あとはぐっと知っている割合がへる。そしていずれも、女子のほうが男子よりはるかによく知っている。

多少は12月という調査時期が影響したにせよ、秋分の日(9月23日)、憲法記念日(5月3日)、建国記念日(2月11日)、春分の日(3月21日)が2割を切っており、また両親の誕生日を知っている割には、母の日(5月第2日曜日)、父の日(6月第1日曜日)が知られていないのは、不思議な結果である。しかし、たとえば勤労感謝の日(11月23日)は、調査時点のわずか1カ月かそれ以内にあったのに、もう子どもの念頭からは薄れてし

まったのか、31%という低率である。家族と自分とに関わる特定の日や、バレンタインデーのように、企業が積極的にPRする日を除いては、それぞれの休日の意味や歴史的背景などは、子どもたちの中には、ほとんど入り込んでいないのだろう。

以上見てきたように、「休日」というイメージは、子どもも家族もそろって過ごす豊かさや暖かさに充ちた日、というイメージとはどこか違っているように思われる。ゆっくり朝寝をして、テレビかおしゃべり、外出するとなればデパートかファミリーレストラン、といったどこかにおびしきの風が吹く、そしておとなも子どもも、リフレッシュメントやエンリッチメントというより、疲れ休みの影の濃い日のように思われる。

豊かな社会の到来とは言われるものの、これが本当に豊かな社会に暮らす人びとの暮らしなのだろうか。

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。

図24 休日の月日を知っているか

